

世界一長い木造歩道橋「蓬莱橋」の 魅力を活かした地域の賑わいづくり

竹内 えり子¹・大橋 源太²・茂川 裕行³・大石 三之⁴・西崎 将⁵
和泉 大作⁴・野田 渉⁶・大須賀 麻希⁴・平田 瑞穂⁴

¹正会員 株式会社建設技術研究所東京本社環境部（〒330-0075 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷 4-2-20 住友生命浦和テクノシティビル 1F）

E-mail:e-takeuchi@ctie.co.jp

²国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所工務課（〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 3-108）

E-mail:oohashi-g85aa@mlit.go.jp

³島田市役所産業観光部観光課（〒427-8501 静岡県島田市中央町 1-1）

E-mail:hiroyuki1_mogawa@city.shimada.lg.jp

⁴株式会社建設技術研究所東京本社環境部

⁵株式会社建設技術研究所東京本社都市部

⁶株式会社建設技術研究所中部支社河川部

大井川の中流部に位置する島田市は、東海道の宿場町として大井川を川越する人々でにぎわった場所である。明治期には牧之原の茶畑が開墾され、島田と茶畑の往来のため大井川に蓬莱橋が架けられた。現在、この蓬莱橋は世界一長い木造歩道橋として県外からも多くの観光客が訪れる観光名所となっている。

こうした特性を生かし、蓬莱橋と周辺の水辺に賑わいや憩いの場を創出することをねらいとして、2017年3月に蓬莱橋左岸側で「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が、2021年3月に右岸側の「大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり計画」が登録された。本報告では、このかわまちづくりの取り組みのうち、主に右岸側を対象として、計画の立案過程とその結果を報告する。

Key Words: community development integrating rivers, The Horai Bridge, water amenity space, workshop

1. はじめに

島田市は大井川の中流部に位置し、大井川を挟む東海道の宿場町として、大井川を川越する人々でにぎわった場所でもある。

大井川には、世界一の長さを誇る木造歩道橋の蓬莱橋が架かっている。明治期に牧之原の茶畑が開墾され、それに伴い島田からの農道として架けられた蓬莱橋は、県外からも多くの観光客が訪れる観光名所となっている。さらには、時代劇等のロケ地としても活用されている。なお、蓬莱橋は木造橋として世界一の長さが認められ、ギネスブックにも登録されている。

こうした特性を生かし、島田市では、大井川を軸としたまちづくりを進めており、「蓬莱橋」とその周辺の水辺を「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として活用する取り組みを進めている。本報告

は「かわまちづくり支援制度」を活用し、地域活性化を目指した取り組みを紹介する。



図-1 島田市蓬莱橋の位置図

2. かわまちづくりとは

かわまちづくり事業とは、まちづくりにおいて河川空間を積極的に活かすことを目指し、河川とそれに繋がるまちを活性化する取り組みである。事業の推進に向けては「かわまちづくり支援制度」が設けられており、同制度は河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、観光基盤となる「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すものである¹⁾。また、河川利用の面においては占用許可を緩和により 2011 年 3 月から全国の河川で、民間事業者が飲食店、オープンカフェ、広告板、照明・音響施設、バーベキュー場等を設営することが可能になったことから様々な利用スタイルでの動きが広がっている。狩野川では「かのがわ風のテラス」にて、民間事業者によりバーベキューやカヤックの体験が提供されている²⁾。

3. 蓬莱橋周辺におけるかわまちづくりの経緯

(1) 経緯

蓬莱橋はドラマや映画の舞台になるなど、観光客は年々増加しており、2016 年度には約 15 万人もの観光客が蓬莱橋を訪れている。開催されるイベントについても年々訪客人数が増加し、2009 年には車で 10 分という直近に富士山静岡空港が開港され、海外からの観光客が急増し、外国人からも人気の高い観光地となっている。また、大井川沿川には蓬莱橋のほか川越遺跡等の歴史的施設やマラソンコース「リバティ」等の運動施設が整備されており、地域住民のみならず多くの人に利用され、観光振興や地域活性化に向けたポテンシャルが高いエリアとなっている。しかし、蓬莱橋周辺は利便施設や河川へのアクセス性が課題となっており、地域住民や観光客からはより良い整備を望む声が多く上がっていた。

このような中、「島田市大井川ミズベリング協議会」が設立され、先行して「蓬莱橋」の左岸側を中心とした「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が 2017 年 3 月に登録された。



図-2 蓬莱橋 (島田市提供)



図-3 蓬莱橋周辺の状況

(2) 先行する蓬莱橋左岸側「大井川宝来地区かわまちづくり計画」

a) 登録に向けた取り組み

2016 年 5 月に島田市、観光協会、商工会議所や、蓬莱橋関係団体である蓬莱橋周辺整備促進協議会、蓬莱橋ぼんぼり祭り実行委員会、観月会、蓬莱橋を管理する蓬莱橋土地改良区等と、河川管理者である静岡河川事務所からなる「島田市大井川ミズベリング協議会」を設立し、蓬莱橋左岸側の周辺の利用と整備について議論を重ねた。議論の結果をとりまとめ、かわまちづくり計画の申請を行い、2017 年 3 月に登録に至った。

b) 宝来地区のかわまちづくりの取り組み

この計画に基づき、蓬莱橋左岸側では、「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として整備することを目的にハード整備やソフト施策を実施している。

c) 左岸側宝来地区の整備の実施

国土交通省、島田市にて物販施設や基盤整備等を実施している。

物販施設は、蓬莱橋の全長 897.4m に由来して、2018 年 1 月に蓬莱橋 897.4 茶屋 (やくなしちゃや) と命名され、2018 年 3 月 20 日に竣工式が行われた。(図-5) 蓬莱橋は、長い木=長生きの橋、全長 897.4m は厄無しの語呂合わせで縁起が良いとされている。

2020 年度までに、駐車場、階段、親水護岸、坂路、物販施設、番小屋、トイレの整備が完了し、令和 3 年度は、蓬莱橋上流側の木陰の散策路整備、案内看板等の整備を予定している。

d) ソフト施策

ソフト施策は、「島田市大井川ミズベリング協議会」を核として展開され、島田市特産品であるお茶ややまゆり商品(農産物・農産加工品)等の物産販売、「蓬莱橋ぼんぼり祭り」「観月会」「水辺で乾杯」等のイベント

を実施している。現在では地元団体主催のマルシェ等のイベントも実施されている。



図4 蓬萊橋897. 4茶屋（やくなしちや） 竣工式の様子

e) 蓬萊橋の観光資源としての課題

蓬萊橋は全長が 897.4m と長く、左岸側から渡った先の右岸側には主だった目的地がないこともあり、橋の途中で折り返して帰る観光客等が多く、滞在時間が短いという課題がある。そこで、令和 2 年度には、これまで先行して進めてきた対岸にあたる蓬萊橋右岸側を対象にかわまちづくり計画の検討を開始した。

4. 蓬萊橋右岸側を対象としたかわまちづくり計画の検討

(1) 蓬萊橋右岸の立地と島田市における位置づけ

蓬萊橋は牧之原開拓により茶栽培が営まれるようになり、大井川を渡る人の往来が盛んになったことから、架橋が認められ 1879 年（明治 12）に完成した農道である。観光時の蓬萊橋周辺の動線は、左岸側に駐車場と料金をとる番小屋があるため、左岸側に駐車をして右岸側に向かう。右岸は牧之原台地の上に大茶園が広がる。蓬萊橋と台地上までの高低差は約 50m あり、斜面の民有林は土砂流出防備保安林に指定されている。また、蓬萊橋右岸たもとからは、富士山を望むことができる。

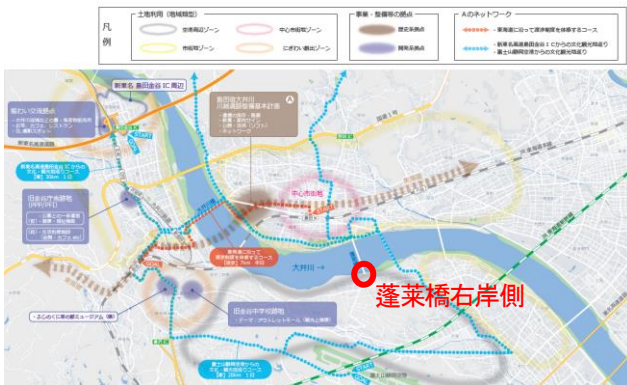


図5 蓬萊橋周辺の施設とまちづくりに関する計画
島田市の都市計画マスタープランにて、蓬萊橋周辺は

自然・歴史資源などを活かした観光・交流拠点の形成箇所として選定され、利便性や景観を高めるための整備を推進することが位置付けられている。また、蓬萊橋右岸側の初倉地域のまちづくりの方針として、蓬萊橋右岸周辺で歩いて楽しいみちづくりを検討するとともに、市民の活動の場として大井川河川敷の整備・利活用にとりくむことが示されている。

蓬萊橋から約 3.5k 上流の左岸側では、東海道沿いに形成された島田宿大井川越遺跡の保存と活用が計画され、歴史を活かしたまちづくりの拠点となっている。活用の一環として大井川の左右岸を徒歩または車で巡る体験・観光のネットワーク動線が位置付けられている（図-5）。右岸側の牧之原台地では、観光や交流、健康をテーマとした官民連携によるロードサイド型の施設整備が計画されている。

(3) 検討部会の立ち上げと WS による計画づくり

a) 検討部会の設置

蓬萊橋右岸側の活用と整備について、既に立ち上がっている島田市大井川ミズベリング協議会の下部に「蓬萊橋右岸側地区検討部会」を立ち上げて話し合いを行った。

参加者は、蓬萊橋周辺整備促進協議会、観光協会、商工会議所、商工会、右岸の初倉地区自治会、蓬萊橋土地改良区の代表者のほか、蓬萊橋右岸側で活動する市民、市役所の若手職員 7 名が参加した。

b) 検討部会における計画のアイデア出し・議論

蓬萊橋右岸側の活用と整備に関して令和 2 年度に 3 回の検討部会を開催した。表-1 に各回の議論の内容と成果概要を示す。

表-1 検討部会の主な議題と成果概要

回	議題	成果概要(検討部会委員意見)
1	活用の方針：いいところ、改善したいところ、どのような場所にしたいか	<ul style="list-style-type: none"> 世界一の木造歩道橋、日本一の富士山を活かす。 人が集まり楽しむ場、文化が生まれる場にする。 観光客向け「左岸」、市民向け「右岸」
2	かわまちづくりでの取り組みについて（整備内容等）	<p>台地上:蓬萊橋に降りるルートをわかりやすく。駐車場整備。</p> <p>斜面林:森林浴の散策路、蓬萊橋ビューの確保(樹木一部伐採)、お花見スポット。</p> <p>河川敷:キャンプ場、BBQ 広場、ウッドデッキなどのテラス、カフェレストランの整備。</p> <p>水際:中州撤去ワンド、川床の整備。</p>
3	かわまちづくり計画案について	<p>地元を含めて検討を進める。</p> <p>⇒2021 年に社会実験を実施</p>

検討部会 1 回目と 2 回目は 3 班に分かれてグループワ

ークを行い、現状の課題や良いところ、活用の方向性、整備についてを議論した。3 回目は、議論の結果をとりまとめたかわまちづくり計画を説明し、申請内容について意見交換を行った。

1 回目では蓬萊橋右岸側の現状について、よいところ、改善したいところを出してもらい、それを踏まえて将来どのような場所にしたいかを話し合った。意見としては、市民で橋を渡る人が少ないため、市民が日ごろから行きたくなる場所とすること、富士山を望む風景を PR することなどが上がった。

第 2 回では、第 1 回の検討を踏まえて、場所ごとの利活用と具体的な整備を議論した。話し合いの結果、右岸側には駐車場がないことやアクセスがわかりにくくことを踏まえて、駐車場の整備や案内の充実が必要であること、高水敷ではバーベキューやキャンプなどのアウトドア、川床なども整備が出来ればとの意見があった。

かわまちづくり全般に関しては、牧之原台地と蓬萊橋の歴史、現状の緑豊かな景観などの調和を踏まえて整備や活用を進めていくべきとの意見があった。地域の魅力を損なうことなく事業を推進することが重要である。

なお、検討部会の開催状況は、毎回ニュースレターにとりまとめて、島田市のホームページに掲載したほか、897.4 茶屋にも置いて検討を行っていることを市民や来訪者に向けて情報発信を行った。

(3) かわまちづくり計画の策定

検討部会参加者による検討内容をとりまとめて申請書を作成し、2021 年 3 月には「大井川蓬萊橋右岸地区かわまちづくり」が「かわまちづくり支援制度に係る計画」に登録された。

a) 広域的な方針

大井川蓬萊橋右岸での新たな「かわまちづくり」は、大井川を軸に形成された島田市の風土を活かし、現代の交通結節点である島田駅や島田金谷 IC、富士山静岡空港からの来訪者を地域全体でおもてなしし、島田市の活性化に貢献することを大きなねらいとした。

そのため、大井川蓬萊橋右岸のかわまちづくりは、蓬萊橋左岸の宝来地区と連携し、蓬萊橋の両岸を魅力化して結びつきを強化して、蓬萊橋一帯の拠点性を向上させる方針とした(図-6)。

b) 蓬萊橋右岸の水辺空間の活用と整備

市民の憩いの場、さらに観光客もターゲットとしてカフェや水辺のアウトドアを楽しめる場所を目指し、高水敷の広場・トイレ・散策路などの整備や民間事業者等と連携したオープンカフェやデイキャンプ場などの活用(図-7)を計画にとりまとめた。

また、既存の展望第のビュースポットの見晴らしを改善し、蓬萊橋、大井川、富士山の眺めを PR・活用を推進するほか、マルシェの開催や既存のイベントの他に新たなイベントの実施にも取り組むことを計画に位置付けた。

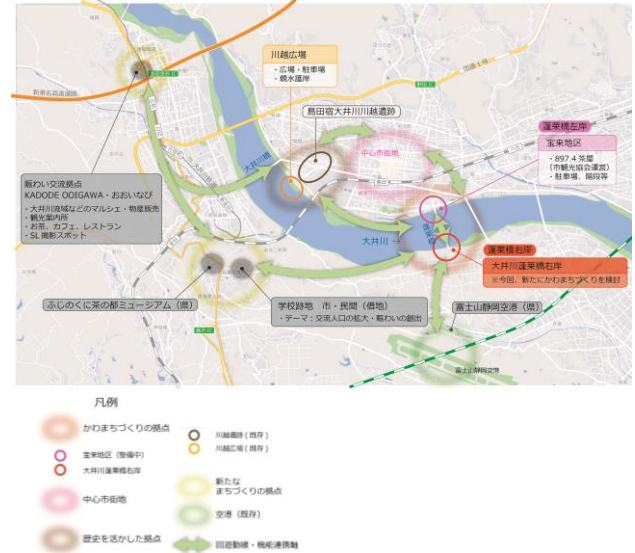


図-6 大井川の利活用の基本的な考え方(広域)

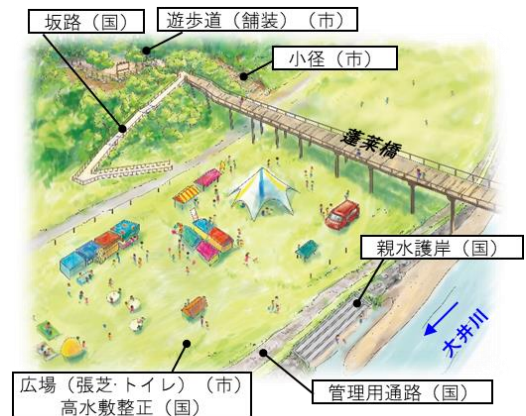


図-7 大井川蓬萊橋右岸側の整備・活用イメージ

5. 社会実験の企画検討

今後は、蓬萊橋の左岸側と一体となったイベント等により人々の「ふれあいの場」としての活用を予定している。両岸のかわまちづくりにより蓬萊橋の魅力をさらに強化し、大井川を軸に観光客が周遊するネットワークの形成を目指すものである。

2021 年 11 月に右岸側の活用にあたっての社会実験を予定しており、引き続き検討部会にて企画を議論しているところである。第 2 回企画検討部会では、右岸へ誘導することを意識した社会実験のキャッチコピー、クイズラリーの質問などを参加者とともに検討した。さらに、島田市では「水辺イベント」企画提案の募集と行い公募

者による水辺活用の実施を予定している。

また、社会実験にあたり、車で右岸側へのアクセスに新たな課題も生じている。2021年8月の出水により、蓬萊橋までアクセス可能な仮設道が浸食により流出した。社会実験にあたっては代替案として、イベント時に蓬萊橋のたもとから荷物を河川敷に下す昇降機などで対応する予定である。

河川では、浸食、堆積の作用は当たり前のように発生するものであり、利活用にあたっては想定しておくべき事項と考える。仮設道の流出は、公募者には不確実性、不便であるとの印象を与えていると考えられ、3件中1件の公募企画は来年度に実施を延期することとなった。今後の継続的な利活用を見据え、確実なアクセス路の確保が課題となっている。

6. おわりに

検討部会参加者の意見を反映し、かわまちづくり計画を策定した。今後は社会実験を通じて利活用時の課題を把握しながら、蓬萊橋の右岸側に適した利用形態とそれに伴い必要な整備を具体化していく。

これらは、蓬萊橋の歴史と景観を保ち、検討部会参加

者、地元の地権者の合意を得ながら活用を図り、賑わいを創出していく必要がある。左岸側とも一体となった水辺空間の魅力向上により、蓬萊橋を中心に島田市の活性化に寄与するかわまちづくりとしていく。

謝辞：本報告は、島田市観光課、国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所と連携して行ったかわまちづくりの計画・検討です。島田市観光課、静岡河川事務所ほか、ミズベリング協議会、検討部会委員を含め、計画の策定、社会実験の企画検討に関わる関係者の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：「かわまちづくり」支援制度実施要綱
- 2) 国土交通省水管理・国土保全局：河川空間のオープン化活用事例集

(2021. 10. 1 受付)

CREATING A PROSPERITY AREA BY TAKING ADVANTAGE OF THE CHARM OF HORAI BRIDGE, THE LONGEST WOODEN PEDESTRIAN BRIDGE IN THE WORLD

Eriko TAKEUCHI, Genta OOHASHI, Hiroyuki MOGAWA, Mitsuyuki OOISHI, Shou Nishizaki, Daisaku IZUMI, Wataru NODA, Maki OOSUGA and Mizuho HIRATA

Shimada City, located in the middle of the Oi River, is a post town on the Tokaido River and is crowded with people who cross the Oi River. In the Meiji era, the tea plantation in Makinohara was reclaimed, and the Horai Bridge was built over the Oi River for the traffic between Shimada and the tea plantation. Currently, this Horai Bridge is the longest wooden pedestrian bridge in the world and is a tourist attraction visited by many tourists from outside the prefecture. Taking advantage of these characteristics, the "Oigawa Horai District community development integrating rivers plan" was launched in March 2017 on the left bank of Horai Bridge, the "The right bank of Oigawa Horai Bridge District community development integrating rivers plan" was launched in March 2021 on the right bank of Horai Bridge, with the aim of creating a place of liveliness and relaxation in Horai Bridge and the surrounding waterside.

In this report, we will report on the planning process and the results of this community development integrating rivers plan, mainly targeting the right bank side.